HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ゼロ年代の情報行動の変容 : エスノグラフィによるブログ行動のモチベーション分析 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	高谷, 邦彦
Citation	北海道大学. 博士(国際広報メディア) 甲第12287号
Issue Date	2016-03-24
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/61540
Rights(URL)	http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Kunihiko_Takaya_abstract.pdf (論文内容の要旨)

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（国際広報メディア）　　氏名：高谷 邦彦

学位論文題名

ゼロ年代の情報行動の変容
― エスノグラフィによるブログ行動のモチベーション分析 ―

インターネット（ウェブ）という新興メディアの影響力が飛躍的に増大した「ゼロ年代」（本研究では 1990 年代後半～2010 年前後までの 10 数年間を指す）は、各種パーソナル・メディアを通じて多様なアイデンティティを持った個人が多様なメッセージを発信し、不特定多数の人々と不定形のネットワーク上でコミュニケーション行為をすることが一般化した時代である。そうした時代背景を踏まえて、本研究では人々が自らコンテンツの生産=発信者としてどのようにウェブを利用しているのかという能動的な情報行動のモチベーションに注目している。 特に、インターネットの時代になって、マス・メディアが支配していた時代には世の中には注目されなかった無名の個人や様々な社会的マイノリティの存在に光が当たるようになった。自らの声を広く社会に向けて主体的に発信する手段を持たなかった個人が、インターネットという民主的でグローバルな道具を使って遍くメッセージを発信することが可能となった結果、様々なマイノリティが人々の視界に浮上してきた。こうした社会的文脈のなかで、＜送り手の多様性＞をミクロ的な視点から分析することが本研究の目的の一つである。

90 年代後半の「個人ホームページ」の時代には、ウェブに関する技術を身につけた強い表現欲求を持つ一部のユーザによる自己呈示を主たる動機とした発信活動であった。ブログの登場によって参入障壁が低くなると、国内だけでも何百万人という人々がブログを開設し運営するようになった。なぜこれほどまでに多くの人々が情報の生産=発信者となったのか？ そのモチベーションはどこにあるのか？ 本研究課題は、この点に立脚している。そこで、ブログに搭載された各種のフィードバック機能およびコミュニケーションの仕組みによって、多くのユーザが承認欲求や関係欲求を容易に充足するためのシステムとしてブログを利用するようになったのではないか、という仮説を立てて調査を開始した。やがて 2000 年代後半になると SNS の人気が高まり、現在は「ソーシャルメディア」の時代となり、Twitter や Facebook など関係志向の強いサービスを使ったウェブでのコミュニケーションが世界的に広まっている。つまり、ゼロ年代に人々のウェブ利用のモチ

ベーションが、＜表現志向＞から＜関係志向＞へと大きくシフトしているわけである。ブログは「個人ホームページ」と「ソーシャルメディア」の間をつなぐ役割を果たしてきたことから、人々のブログ利用法やモチベーションがどのように変化・推移してきたのかを分析することで、現代のメディアと人間の新しい関係を提示することができるものと想定した。

本仮説検証のためには、従来のマス・コミュニケーション研究や「利用と満足」研究のような、人々が「受け手」として扱われていたマス・メディア時代のフレームワークでは捉えることができないため、ウェブの時代ならではの新たなフレームワークが必要である。また大規模サーベイによる統計的分析手法では捉えられない現代の多様な＜生＞の実態を把握することも求められている。そこで本研究では、ブログに残されたログを手がかりとして時系列にユーザ行動を追跡し、投稿内容や他のユーザとのコメントの応酬も含めて、時間の奥行きや前後の文脈、人間関係などを加味したテキスト分析の手法が取られている。

ブログに描かれた個人の生活を擬似同期的に観察することによって読み解こうとするこのアプローチを、本研究においては「ブログ・エスノグラフィ」と名付けられている。ブログ・エントリーの内容分析だけではなく、調査対象ユーザが他のユーザのブログへどのタイミングで訪問し、どのようなコメントを残したかなどの「ブログ行動」も含めて分析している点に新規性がある。主観に陥りがちな解釈の過程を、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの「分析ワークシート」によるコーディング表を採用することにより透明化されている点、さらに「時系列の行動記録」という客観的なデータも資料としたことにより、質的研究法の欠点を可能な限り回避しつつ、ブログ本文のテキスト分析だけでは見えなかった事実も明らかにされている。

分析にあたっては、まず先行研究が明らかにしてきたウェブ利用の充足類型を「表現欲求」「承認欲求」「成長欲求」「関係欲求」「貢献欲求」の５つに再分類し、メインのインフォーマントとなる３人のユーザ（子供のいない怠惰な専業主婦、重病を克服した初老の男性、恋愛中のゲイの大学生、という３タイプの社会的マイノリティ）と、そのブログの常連訪問者（オン友）も合わせて約 20 名を対象とし、半年～数年分のブログ・エスノグラフィによって５つの欲求がどのように発現し、充足されているかを構造化した。その結果、ユーザによってモチベーションに差異はあるものの、ブログが①仲間探しのメディア、②救いのツール、③叫びの壺、④存在証明、⑤社会貢献の場、などといった多様でニッチな役割を果たしており、ウェブが現代に生きる人々にとって各種の欲求を充足させるために不可欠なメディアとして機能していることが明らかになった。さらに表現欲求に基いてブログを開設したユーザであっても、更新を続けるうちに、やがて訪問者とのコミュニケーションに強い充足感を見出し、しだいに関係欲求に基づいた利用法が主体になっていくという大きなシフトを見出すことができた。

以上の分析より、現在のメディア使用に関して、コンテンツに重点が置かれて更新にかかる精神的コストの高いブログよりも、弱い紐帯でつながる多数の「友達」との気軽なコミュニケーション活動に特化した SNS 等のソーシャルメディアに人

気が集まっている理由が推測される。ウェブには個人の生活記録がデジタル・データとして大量に蓄積されているが、研究資料として十分に活用されているとは言えない。本研究は、このようなウェブのデータを資料とし、ゼロ年代に生きる人々の情報行動の変容を解明しようとした点に新規性があり、資料の着眼点に重要な意義を持つものと考えられる。

ウェブという新しいメディアが一般の人々に普及し、約 20 年が経過しようとしているが、ウェブに特化したメディア論研究アプローチは未だ確立されているとは言えず、 従来の「古典的」定量的アプローチが主流であるのが現状である。＜アナログ＞から＜デジタル＞へ、＜マス＞から＜個＞へ、＜受け手＞から＜送り手＞へ、＜一方向＞から＜双方向＞へとシフトしている技術的・時代的・社会的背景のなか、最新のメディア環境に適した研究アプローチが模索され続けている。本研究が提示しているブログ・エスノグラフィは、定量データを用いた計量分析だけでは見過ごしがちの社会的リアリティの一端を、質的なアプローチによって焦点を当てようとする試みであり、ブログを社会的文脈の中で読み解く新しい視点を提供しているものと思われる。